

青森県における農福連携の取組の推進について

農福連携の取組方針と目指す方向

○ 農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組であり、農林水産省では、厚生労働省と連携して、「農業・農村における課題」、「福祉(障害者等)における課題」、双方の課題解決と利益(メリット)があるWin-Winの取組である農福連携を推進。

「農」と福祉の連携(=農福連携)

【農業・農村の課題】

- ・農業労働力の確保
※毎年、新規就農者の2倍の農業従事者が減少
- ・荒廃農地の解消 等
※佐賀県と同程度の面積が荒廃農地となっている

【福祉(障害者等)の課題】

- ・障害者等の就労先の確保
※障害者約964万人のうち雇用施策対象となるのは約377万人、うち雇用(就労)しているのは約94万人
- ・工賃の引き上げ 等

障害者等が持てる能力を發揮し、それぞれの特性を活かした農業生産活動に参画

【農業・農村のメリット】

- ・農業労働力の確保
- ・農地の維持・拡大
- ・荒廃農地の防止
- ・地域コミュニティの維持 等

【福祉(障害者等)のメリット】

- ・障害者等の雇用の場の確保
- ・賃金(工賃)向上
- ・生きがい、リハビリ
- ・一般就労のための訓練 等



労働力の確保



新たな就労の場の確保

目指す方向

1 農業生産における障害者等の活躍の場の拡大

障害者等の雇用・就労の場の拡大を通じた農業生産の拡大。



2 農産物等の付加価値の向上

障害の特性に応じた分業体制や、丁寧な作業等の特長を活かした良質な農産物の生産とブランド化の推進。



3 農業を通じた障害者の自立支援

障害者の農業への取組による社会参加意識の向上と工賃(賃金)の上昇を通じた障害者の自立を支援。



1

農福連携に係る国・県の動き

1 国の動き

- 農福連携等推進会議（平成31年4月設置）
農福連携等の全国的な機運醸成を図り今後強力に推進していくため、内閣官房長官を議長とした省庁横断の会議を設置。
- 農福連携等推進ビジョン
令和元年6月に開催された第2回会議において、今後の方向性を示した「農福連携等推進ビジョン」を決定
目標：今後5年で農福連携に取り組む主体を新たに3,000創出
取組：農福連携を進めるための3つのアクション
①認知度の向上 ②取組の惻隠 ③取組の輪の拡大

2 県の動き

- 農業分野（農林水産部）
平成23年度から三八地域で取組みを開始し、現在は全県規模に展開。
障害者の就労モデルの実証、農業側と福祉側のマッチング支援、農業ジョブトレーナーの育成など。
- 障害分野（健康福祉部）
農業分野での障害者の就労支援、職域拡大や輸入拡大を図るため、平成28年度から以下事業を実施。
 - ・ 農福連携による障害者の就農支援事業（農福連携マルシェ）
 - ・ 障害者就労施設工賃向上支援事業（経営アドバイザーによる現地助言）
- 青森県農福連携推進会議（令和4年7月1日設置）
目的：農福連携の現状と課題の共有、県内外の優良事例の共有、今後の方向性と施策の検討
構成：生産者団体、福祉関係団体、商工労働関係団体、教育関係団体、金融関係
行政（農林水産部、商工労働部、教育庁、健康福祉部）

I 農福連携等の推進に向けて

農福連携は、農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを出し、社会参画を実現する取組。年々高齢化している農業現場での貴重な働き手となることや、障害者の生活の質の向上等が期待

農福連携は、様々な目的の下で取組が展開されており、これらが多様な効果を発揮されることが求められる

持続的に実施されるには、農福連携に取り組む農業経営が経済活動として発展していくことが重要で、個々の取組が地域の農業、日本の農業・国土を支える力になることを期待

農福連携を全国的に広く展開し、裾野を広げていくには「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていない」といった課題に対し、官民挙げて取組を推進していく必要

また、ユニバーサルな取組として、高齢者、生活困窮者等の就労・社会参画支援や犯罪・非行をした者の立ち直し支援等、様々な分野にウイングを広げ、地域共生社会の実現を図ることが重要（SDGsにも通じるもの）

農福連携等の推進については、引き続き、関係省庁等による連携を強化

II 農福連携を推進するためのアクション

目標：農福連携に取り組む主体を新たに3,000創出*

1 認知度の向上

- 定量的なデータを収集・解析し、農福連携のメリットを客観的に提示
- 優良事例をとりまとめ、各地の様々な取組内容を分かりやすく情報発信
- 農福連携で生産された商品の消費者向けキャンペーン等のPR活動
- 農福連携マルシェなど東京オリンピック・パラリンピック等に合わせた戦略的プロモーションの実施

2 取組の促進

○ 農福連携に取り組む機会の拡大

- ワンストップで相談できる窓口体制の整備 ・スタートアップマニュアルの作成
- 試験的に農作業委託等を短期間行う「お試しノワーク」の仕組みの構築
- 特別支援学校における農業実習の充実
- 農業分野における公的職業訓練の推進

○ ニーズをつなぐマッチングの仕組み等の構築

- 農業経営体と障害者就労施設等のニーズをマッチングする仕組み等の構築
- コーディネーターの育成・普及
- ハローワーク等関係者における連携強化を通じた、農業分野での障害者雇用の推進

○ 障害者が働きやすい環境の整備と専門人材の育成

- 農業法人等への障害者の就職・研修等の推進と、障害者を新たに雇用して行う実践的な研修の推進
- 障害者の作業をサポートする機械器具、スマート農業の技術等の活用
- 全国共通の枠組みとして農業版ジョブコーチの仕組みの構築
- 農林水産研修所等による農業版ジョブコーチ等の育成の推進
- 農業大学校や農業高校等において農福連携を学ぶ取組の推進
- 障害者就労施設等における工賃・賃金向上の支援の強化

○ 農福連携に取り組む経営の発展

- 農福連携を行う農業経営体等の収益力強化等の経営発展を目指す取組の推進
- 農福連携の特色を生かした6次産業化の推進 ・障害者就労施設等への経営指導
- 農福連携でのGAPの実施の推進

3 取組の輪の拡大

- 各界関係者が参加するコンソーシアムの設置、優良事例の表彰・横展開
- 障害者優先調達推進法の推進とともに、関係団体等による農福連携の横展開等の推進への期待

III 農福連携の広がり

「農」と「福」のそれぞれの広がりを推進し、農福連携等を地域づくりのキーワードに据え、地域共生社会の実現へ

1 「農」の広がりへの支援

林業及び水産業において、特殊な環境での作業もあることにも留意しつつ、障害特性等に応じた、マッチング、研修の促進、経営発展を目指す取組の推進、林・水産業等向け障害者就労のモデル事業の創設

2 「福」の広がりへの支援

高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等の働きづらさや生きづらさを感じている者の就労・社会参画の機会の確保や、犯罪や非行をした者の立ち直しに向けた取組の推進

出所：農林水産省HP

令和4年度の実績と 令和5年度の方針について

青森県

令和4年度の取組実績

区分	取組事項	開催時期	開催場所
推進会議	● 第1回青森県農福連携推進会議	7/25	ホテル青森 ウェディングプラザアラスカ
	● 第2回青森県農福連携推進会議	2/9	
	● 第1回農福連携調整会議（関係4部庁）	9/7	県庁内
	● 第2回農福連携調整会議（関係4部庁） ● 第3回農福連携調整会議（関係4部庁）	1/13 2/3	県庁内 県庁内
1 農福連携の認知度向上	● チャレンジ農福等取組の情報発信	9～1月	地方紙：1、日本農業新聞：8、JA広報：6、JAFacebook：1
	● 各地域現地検討会の開催	10～11月	6地域県民局管内：計6回
2 農福連携に踏み出すきっかけづくり	● 各地域農福連携連絡会議の開催	6～3月	6地域県民局管内：計12回
	● 就労継続支援B型事業所データベース作成（農福連携取組希望：118事業所）	8～12月	6地域県民局管内（調査対象：243事業所）
	● チャレンジ農福の実施	8～2月	6地域県民局管内：42件
	● 農業ジョブトレーナー養成研修	12/8～9	アグリノの里おいらせ
3 農福の輪の拡大	● 青森県特別支援学校技能検定・発表会の職業技能部門に【農業分野】の新設	4月～	マエダアリーナ ほか
	● ノウフクマルシェ	6～2月	5障害福祉圏域
	● 農福連携担当による特別支援学校への訪問	7/8	青森第二高等養護学校他
	● 特別支援学校と農業経営士との交流会	10/13	風丸農場他（鱈ヶ沢町）
	● ノウフクJASセミナー	12/8	アートホテル青森
	● 障害者雇用事業所見学会・意見交換会【農業部門】	1/25	(株)グリーンソウル（十和田市）
	● 特別支援学校と農業関係者の座談会	2/13	6教育事務所管内

●取組の概要

・農協生産部会の代表者等と福祉事業所を利用している障がい者ユニットをマッチングし、障がい者が取組可能な農作業について検討し、実施。その取組を現地検討会や広報等を活用して地域の農業者に広く周知する。

●取組の結果

・りんごの葉取り、にんにくの種こぼしなど、障がい者が取り組みやすい作業で県内42件実施。取組は農協広報や新聞で周知した。農業者に対して「農福連携」を更に周知するため、今後も継続して実施する。



J A 青森 現地検討会



J A つがる弘前 りんご葉取り



J A 相馬村 りんご葉取り

地域	実施主体	件数	作業内容
東青	J A 青森	5	りんご葉取り、枝拾い 等
中南	J A つがる弘前	3	大豆ほ場整備、りんご葉取り
	J A 相馬村	5	りんご葉取り、収穫補助
	J A 津軽みらい	2	にんにく出荷調整
三八	J A 八戸	8	にんにく植付け、種こぼし 等
西北	J A ごしょつがる	6	すいか・トマト収穫後の片付け 等
	J A 十和田おいらせ	5	ごぼう選別、にんにく種こぼし 等
上北	J A ゆうき青森	1	ながいもネット撤去
	J A おいらせ	3	ながいも収穫、ごぼう選別
	J A 十和田おいらせ	4	さつまいもの調整 等
合計		42	



J A おいらせ ながいも収穫



J A 八戸
施設内でにんにく種こぼし



J A ごしょつがる
稲わらロール運び出し



J A 十和田おいらせ
花豆のさや剥き



J A 十和田おいらせ
ねぎの出荷調整



J A 八戸 農家でにんにく種こぼし

<農林水産部> 農業ジョブトレーナー養成研修 ノウフクJASセミナー

ノウフク

●取組の概要

- ・農業側と福祉側それぞれの知識を有する農業ジョブトレーナーを養成するための研修を開催。あわせて、ノウフクJAS制度や障がい者への支援方法を学び、実践者の事例を通じて農福連携についての理解を深める。

●取組の結果

- ・福祉事業所や農協職員、農業者、行政担当者ら32名が参加。農業ジョブトレーナー育成確保とノウフクJASの拡大に向け、今後も継続して実施する。

内容	テーマ	講師・発表者
講義	ノウフクJASの基礎と活用事例について	一般社団法人日本基金 理事 木下 卓 氏 <ノウフクJASセミナーとして実施>
講義	障がい者雇用の留意点と支援について	青森障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 西脇 昌宏 氏
講義	農業ジョブトレーナーの役割について	西北地域県民局地域農林水産部 農業普及振興室主幹 中村 諭 氏
事例紹介	ユニバーサル農業に向けた農福連携事業の取組と成果について	社会福祉法人 ユートピアの会 本部事務局長 沼田 智美 氏
現地研修	就労継続支援事業所「工房あぐりの里」における農作業の実施状況	社会福祉法人 誠友会 理事長 苦米地 義之 氏 工房あぐりの里管理者 鳥谷部 伸一 氏
事例紹介	障がい者の特性に対応した作業支援について	社会福祉法人 求道舎 おおぼこ作業所施設長 附田 賢治 氏



ノウフクJASセミナー



沼田氏による事例紹介



アグリの里おいらせの施設見学



工房あぐりの里における現地研修



附田氏による事例紹介

●取組の概要

- ・ 障害者の職域拡大や収入増加、農福連携の取組の周知等を目的として、農業に取り組む障害者就労施設等で生産された商品を販売するマルシェを開催するもの。平成28年度から開始し、令和4年度は5圏域で実施。

●取組の結果

- ・ 各事業所が一堂に会して商品を販売することで、より多くの集客、売上につながっているほか、農福連携による商品の認知度向上、工賃向上に寄与していることから、取組を継続していく。

<今年度の開催状況>

圏域	実施主体	開催日	開催地
東青	(社福) 青森県 すこやか福祉事業団	11/5~6	サンロード青森
中南	(社福) 阿闍羅会	10/8~9	イオンタウン弘前樋ノ口
三八	(社福) ユートピアの会	10/30 11/19	ノウフクマルシェinホコテン, ノウフクマルシェinはちまる てとてラピア会場
上北	(社福) 求道舎	10/1~2	あおもり肉 [®] のフェスティバル +アオモリキッチンカー フェスティバル (アスパム)
下北	(社福) 桜木会	9/11 10/9	しもきたマルシェ (ミルク工房ボン・サーブ)

中南圏域

三八圏域



●取組の概要

- ・障害者雇用の促進を図るため、県内事業所の経営者等を対象として、平成24年度から県が開催している。

●取組の結果

- ・今年度は県内3圏域で開催し、41名が見学会に参加。雇用事例の周知が、障害者雇用の促進に一定の役割を果たしてきていると考え、今後も取組の充実・強化を図っていく。

<今年度の開催状況>

回次	開催日	見学事業所
第1回	11/29	(福)内潟養護園 特別養護老人ホームきりん館
第2回	1/25	(株)グリーンソウル
第3回	2/1	青森県民生活協同組合

株式会社グリーンソウル

- 設立：平成24年4月
- 所在地：十和田市米田字万内
- 代表者：米田 拓実
- 従業員：37名（うち障害者2名）
- 事業内容：ながいも、ごぼう、だいこん、にんにく等の生産（111ha）及び県産野菜加工

R2.3 七戸養護学校の新卒（軽度知的障害）

R3.6 青森第二高等養護学校卒

（前職有・軽度知的障害）

- ・採用に当たり現場実習評価を実施し、適性を判断。
- ・全従業員に対して、障害者雇用の理解と意識改革を実施。
- ・採用後に作業体系・作業手順を見直し、効率化。一般作業員も作業しやすい環境に変化。



ごぼうの選別・調整作業



「力」のある
若手が大活躍！

コンテナから運び出し、重量選別機に乗せる単純作業



形状をそろえて調整するのは熟練の社員



計量し袋詰めして、農協等へ出荷

<教育庁>特別支援学校技能検定・発表会への農業分野新設 特別支援学校と農業関係者との座談会

<特別支援学校技能検定・発表会※への農業分野新設>

●取組の概要

- ・特別支援学校技能検定・発表会の**職業技能部門に農業分野を新設し、令和5年度からの検定実施を目指す。**
- ・農業分野担当校を浪岡養護学校と弘前第一養護学校とし、計5回のワーキングチーム会議において、検定内容及び指導マニュアル並びに評価表について検討する。

●取組の結果

- ・第1回ワーキングチーム会議（4月21日）に、まごころ農場 斎藤氏、日々木の森 立崎氏、つがるにしきた農業協同組合 鎌田氏に出席いただき、検定内容について協議。**ミニトマトとジャガイモの選果調整に決定**した。
- ・ワーキングチーム会議及び山梨県障害者職業能力検定（農業生産検定）の視察（11月20日）を経て、検定実施に係る**指導マニュアルと評価表の案を作成**した。〔令和5年4月開催予定の実行委員会に諮る〕



第1回ワーキングチーム会議



接客サービス分野

※特別支援学校技能検定・発表会とは

- ・地域の企業等との連携・協働により、県立特別支援学校高等部生徒が「夢や志」をもち、チャレンジする心を育むために、平成28年度に第1回大会を開催し、今年度は**10月20日に第6回大会**をマエダアリーナ等で開催した。
- ・**職業技能部門**（清掃、接客サービス、PC入力）と**コミュニケーション部門**（プレゼンテーション発表、ポスター発表、パフォーマンス発表）の2部門6分野からなる。

<特別支援学校と農業関係者との座談会>

●取組の概要

- ・特別支援学校関係者と農業者等が相互に理解を深め、特別支援学校高等部生徒の**就農実現**を図る。
- ・**今年度初めて開催**予定としている。

特別支援学校と農業関係者との座談会 ～生徒の夢（就農）を叶える～

- 開催日 令和5年2月13日
- 内容
 - <第1部>
 - ・特別支援学校に関する概要説明
 - ・関係部局からの情報提供
 - ・卒業生と雇用主等による座談会
 - <第2部>
 - ・特別支援学校と農業者の座談会及び情報交換会
- 開催方法
 - メイン会場とその他のサテライト会場をオンラインでつないで実施

地域	会場
東青	青森第二高等養護学校
西北	森田養護学校
中南	弘前第一養護学校高等部校舎
上北	七戸養護学校 メイン会場
下北	むつ養護学校
三八	八戸高等支援学校

令和5年度の取組方針

区分	取組事項	所管	取組内容
推進会議	● 青森県農福連携推進会議	関係部庁	・ 青森県農福連携推進方策（仮称）の策定と施策の検討
	● 農福連携調整会議（庁内4部庁）	関係部庁	・ 青森県農福連携推進方策（仮称：案）の作成と農福連携に係る施策の企画・調整
1 農福連携の認知度向上	● チャレンジ農福等取組の情報発信	農林水産部	・ チャレンジ農福の実施内容をJ A広報、新聞等で周知
	● 各地域現地検討会の開催	地域県民局	・ チャレンジ農福実施ほ場等で、農協部会員を参集し取組内容を紹介
	● <u>障害者就労施設・農業者の優良事例の紹介</u>	農林水産部 健康福祉部	・ <u>補助事業活用事例等を含めた取組事例をHP等で紹介</u>
	● <u>農福連携に取り組むためのガイドブックの作成</u>	関係4部庁	・ <u>農福連携への取組に当たり必要な内容等をまとめたガイドブックを作成</u>
2 農福連携に踏み出すきっかけづくり	● 各地域農福連携連絡会議の開催	地域県民局	・ ワンストップ窓口の整備強化のため地域段階のネットワークを強化
	● 就労継続支援B型事業所データベースの <u>活用</u>	農林水産部 健康福祉部	・ <u>作成したデータベースを元に、各地域のマッチングや各種情報提供に活用</u>
	● チャレンジ農福の実施	地域県民局	・ 農協部会員等のほ場で、障がい者と施設職員のユニットによる農作業を試す取組を農協への委託により実施

区分	取組事項	所管	取組内容
2 農福連携に 踏み出すきつ かけづくり	● 農業ジョブトレーナー養成研修の開催	農林水産部	・ 農業側と福祉側両方の知識を持つジョブ トレーナーを養成するための研修を 複数 回実施（WEBでの受講も可能）
	● 農業版ジョブコーチ育成研修への派遣	農林水産部	・ 国が主催する研修（農福連携技術支援育 成研修）に県担当者を派遣
	● 主要品目における農作業の切り出しの検討	農林水産部	・ 福祉事業所等の協力を得て、障がい者が 実施可能な農作業の切り出しについて検 討
3 農福の輪の 拡大	● 青森県特別支援学校技能検定・発表会の職業技能 部門【農業分野】の 実施	教育庁	・ 特別支援学校生徒の農業への関心と技能 の向上のため、職業技能部門に農業分野 を追加し、 選果調整に係る技能の検定を 実施
	● ノウフクマルシェ（農福連携マルシェ）	関係 4 部庁	・ 福祉事業所がメインとなり、国庫事業を 活用してノウフク商品を展示・販売 ・ スーパーや産地直売所において、福祉事 業所に加え、農業者及び関係機関のノウ フク商品を展示・販売
	● 農福連携担当による県立特別支援学校への訪問	関係 4 部庁	・ 関係 4 部庁担当者と特別支援学校教員に よる情報交換と施設見学
	● ノウフク J A S セミナー	農林水産部	・ ノウフク商品の販売力を高めるため、ノ ウフク J A S の活用事例等について学ぶ
	● 障害者雇用事業所見学会・意見交換会 【農業部門】	商工労働部	・ 障害者雇用の優良事業所の見学と参加者 による意見交換
● 特別支援学校と農業関係者の座談会	教育庁	・ 県内 6 教育事務所管内のそれぞれの特別 支援学校を会場に、農業者、生徒、教員 等を対象とした講演と意見交換会を 実施	

青森県における農福連携の推進体制

